

認知症サポート医に関する研修のあり方に関する調査研究事業(概要)

【目 的】

認知症サポート医の活動状況に関する課題等を整理し、認知症サポート医のあり方や役割について検討するとともに、それらを踏まえた研修のあり方に関する提案を行う。

【方 法】

- ①調査内容の検討:委員会を組織し、本調査研究を行うために必要な調査項目を検討する。
- ②都道府県・指定都市、認知症サポート医を対象としたアンケート調査を行う。
- ③今後の方向性の検討:調査結果を踏まえ、認知症サポート医の活動や活用に関する課題を整理し、研修のあり方に関して検討を行う。

【結 果】

①認知症サポート医を対象とした調査

近年は認知症初期集中支援チームに協力するためと認知症ケア加算対象の院内チーム設置のためを目的として受講する医師が増えており、医療機関としては無床診療所と一般病院に所属する医師の受講が増加していた。また、認知症初期集中支援チームに協力している認知症サポート医は可能な認知症診療が全体を上回っており、連携や研修に関しても機能を発揮していた。

②都道府県・指定都市を対象とした調査

認知症サポート医養成研修受講者に関する課題として認知症サポート医の目的や役割を理解してもらいにくい、認知症ケア加算の影響で病院医師の受講希望者の増加、自治体の希望と申込者の受講目的のズレの順に多かった。受講者を選定するルールや要件を決め、主体的に受講者の選定に関わっていると想定された自治体は約半数であった。

③今後の方向性の検討

委員会において認知症サポート医の役割として地域におけるコーディネート機能を担うことが求められ、認知症の人を初期から終末期まで支えていく視点、地域の認知症の人全てが適切な医療や介護等のサービスを受けて生活できるような地域づくりの視点も求められた。このような役割を果たすことができるように研修においては医学的な診断や治療にとどまらない包括的なアセスメントに関する講義や社会的に複雑化した認知症の事例や人権や意思決定に関しても多面的に議論するようなグループワークを取り入れる必要が示された。